



羅 臼 町

平成26年度（平成25年度対象）
羅臼町教育行政の点検・評価

報 告 書

羅臼町教育委員会

目 次

| | | |
|------------|----------------------|----|
| 第1章 | はじめに | |
| 1 | 目的 | 2 |
| 2 | 評価の方法 | 2 |
| 3 | 羅臼町教育行政評価委員 | 2 |
| | | |
| 第2章 | 羅臼町教育委員会の活動状況 | |
| 1 | 平成25年度教育委員会の開催 | 3 |
| 2 | 教育委員の研修及び活動の状況 | 5 |
| 3 | 条例・規則等の制定、計画等の策定状況 | 5 |
| | | |
| 第3章 | 平成25年度の主要施策 | |
| 1 | 幼稚園・学校教育の主な推進項目と評価 | 6 |
| (1) | 「幼稚園教育」 | 6 |
| (2) | 「確かな学力を育む学習指導」 | 6 |
| (3) | 「信頼される学校づくり」 | 7 |
| (4) | 「豊かな心や健やかな体を育む教育」 | 7 |
| (5) | 「羅臼町支援教育の推進」 | 8 |
| (6) | 「自然環境教育の推進」 | 8 |
| 2 | 学校教育に関わるその他の施策 | 9 |
| (1) | 主な調査 | 9 |
| (2) | いじめ・不登校への取り組み | 9 |
| (3) | 教育委員会が行った主な教職員の研修等 | 9 |
| (4) | 各種学校・学級支援 | 10 |
| 3 | 社会教育の主な推進項目と評価 | 10 |
| (1) | 社会教育事業 | 10 |
| (2) | 文化財保護調査事業 | 12 |
| (3) | 公民館事業 | 12 |
| (4) | 図書室事業 | 13 |
| (5) | 社会体育事業 | 14 |
| | | |
| 第4章 | 外部評価委員の意見 | |
| 1 | 学校教育について | 18 |
| 2 | 社会教育について | 19 |
| 3 | 第2回外部評価委員会における意見・提案 | 20 |

第1章 はじめに

1. 目的

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者の意見を付して議会に提出し公表することを目的としています。

2. 評価の方法

平成25年度に教育委員会が取り組んだ学校教育及び社会教育に関する主要な施策について、現状や背景を踏まえ内部評価を行なったうえで、実績を明らかにした結果を次の通りまとめました。

- A：達成状況の十分なもの（効果が現れているもの）
- B：ほぼ達成しているもの（一部効果が現れているもの）
- C：進行中（進行はしているが効果がみられないもの）
- D：計画はしたが未着手のもの。

3. 羅臼町教育行政評価委員

羅臼町教育行政点検・評価にあたっては、各委員により幼稚園、小・中学校の現状について各園、各校の授業参観や管理職の説明を受け状況を把握する他、教育行政が行った主要な各事業については、各事業の点検評価内容を直接担当課より説明を行うなどしながら、次の4名の各委員から具体的な意見などをいただきました。

| 氏名 | 住所 | 職業 | 備考 |
|-------|--------------|------------|------------|
| 芦崎輝雄 | 羅臼町八木浜町24 | 会社役員 | 元羅臼町教育委員長 |
| 二宮信一 | 釧路市城山1-15-55 | 教育大学釧路校准教授 | 教育学・特別支援教育 |
| 境 智洋 | 釧路市城山1-15-55 | 教育大学釧路校准教授 | 地域学校教育 |
| 佐々木泰幹 | 羅臼町幌萌町623-42 | 知床山岳ガイド | 知床山海塾塾長 |

尚、委員の任期は平成26年4月1日から平成28年3月31日までです。

第2章 羅臼町教育委員会の活動状況

1. 平成25年度教育委員会の開催

羅臼町教育委員会は、毎月1回の定例会と、必要に応じて臨時会や教育懇談会などを開催し教育課題に対する協議を行いました。

会議の開催状況は次の通りです。

| 開 催 日 | 付 議 案 件 |
|--------------------------|--|
| 平成25年4月23日 第4回定例会 | 【報告事項】 第4号 諸会議・諸事業について 【その他】 ① 平成24年度学校給食地元食材提供実績について |
| 平成25年5月10日 第1回教育委員協議会 | 【協議事項】 「中学校の建設について（建設場所に関する町長の考え方についての報告）」 |
| 平成25年5月21日 第5回定例会 | 【報告事項】 第5号 諸会議・諸事業について 第6号 第1回臨時町議会の報告について 【その他】 ① 各種会議・研修会について ② 平成24年度 教育委員の学校訪問について |
| 平成25年6月26日 第6回定例会 | 【報告事項】 第7号 諸会議・諸事業について 【その他】 ① 幼稚園教諭の採用について ② 中学校建設に関する住民説明会について ③ 教育委員の学校・幼稚園訪問について ④ 教育委員会外部評価委員会第1回委員会（学校・幼稚園視察）について ⑤ 北海道市町村教育委員について ⑥ 道研夏季フリープラン研修並びに一貫教合同研修について |
| 平成25年7月26日 第7回定例会 | 【報告事項】 第8号 諸会議・諸事業について 第9号 平成26年度に使用する小学校及び中学校の教科用図書の採択について 【協議事項】 議案第9号 平成26年度使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択基準について 【その他】 ① 学校給食センターの増築工事入札結果について ② 熊本県水俣第2中学校・兵庫県北須磨高等学校・アメリカの学校との連携について ～「ESD 日米教員交流プログラム」に参加して～ ⇒町内ユネスコ・スクールに係る今後の取り組みの予定・・・ |
| 平成25年8月29日 第8回定例会 | 【報告事項】 第10号 諸会議・諸事業について 【その他】 ① 平成26年度幼稚園教諭の募集について ② 平成25年度（平成24年度対象）教育行政の点検・評価報告書について ③ その他 ○平成25年度第9回教育委員会開催日程について |

| | |
|-------------------------|---|
| 平成25年9月27日 第9回定例会 | 【報告事項】 第11号 諸会議・諸事業について |
| 平成25年10月22日 第10回定例会 | 【報告事項】 第12号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第10号 準要保護児童生徒の認定（追加）について 議案第11号 平成25年度教育費補正予算について |
| 平成25年11月19日 第11回定例会 | 【報告事項】 第13号 諸会議・諸事業について 第14号 前回認定保留とした準要保護申請世帯の調査結果について 第15号 平成26年度新規事業計画書の提出について 【その他】 ①根室北部（標津町・羅臼町）校長・教頭合同研修会並びに懇親会について ②学校授業公開研（春小・春中） ③第3回ユネスコスクール発表会について ④校長との教育懇談会について |
| 平成25年12月13日 第12回定例会 | 【報告事項】 第16号 諸会議・諸事業について |
| 平成24年12月14日 第1回教育懇談会 | 羅臼町校長会との教育懇談会 「児童生徒の学力の向上の現状と具体的な対策について」 |
| 平成26年1月21日 第1回定例会 | 【報告事項】 第1号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第1号 羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について 議案第2号 平成25年度準要保護児童・生徒の認定（追加）について |
| 平成26年2月25日 第2回定例会 | 【報告事項】 第2号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第3号 平成25年度 児童生徒表彰について 議案第4号 平成25年度 準要保護児童・生徒の認定（追加）について 議案第5号 平成25年度 教育費予算補正について 議案第6号 平成26年度 教育行政執行方針について 議案第7号 平成26年度 教育費予算編成について 【その他】 ①平成25年度卒業（卒園）式及び平成26年度入学（入園）式について ②教育関係合同送別会について ③平成26年度中学生の進路希望状況について |
| 平成26年3月20日 第3回定例会 | 【報告事項】 第3号 諸会議・諸事業について 【協議事項】 議案第8号 羅臼町就学指導委員会規則の一部を改正する規則の制定について 議案第9号 羅臼町立幼稚園の保育料及び入園料の減免に関する規則の一部を改正する規則の制定について 追加議案第10号 平成26年度準要保護児童生徒の認定（追加）について 【その他】 ①平成25年度校長・教頭・一般教職員辞令交付式について ②平成25年度校長・教頭・園長・主任合同会議及び教育関係合同歓迎会について |

i 開催回数 ・定例会 12回 協議会 1回 懇談会 1回
ii 報告事項 16件 ・協議事項14件 ・その他の案件23件

2. 教育委員の研修及び活動の状況

(1) 研修会に関する事項

- i 根室管内教育委員会連合会研修会（管内中標津町において、管内の教育推進に係る重点取り組みや教育委員として取り組んでいる事などについて、各市町ごとに発表し、協議を行った。翌日は、中標津東小学校において学力向上に向けた取り組みの説明、管内唯一、主幹級教諭が配置されていることから役割や活動状況について説明を受け、授業参観を行った後、引き続き中標津町のキャリア教育支援活動を行っている「ニーズ」の実践活動について研修をした。
- ii 北海道教育委員会連合会研修会（札幌市）に参加した。
- iii 本町が単独で行っている教育委員の研修については、日高町教育委員会において、町立日高高等学校の運営状況について研修を行った。
- iv 教育委員の研修会として校長会と「教育懇談会」を行い、「学力の向上を図る各校の取り組み」について研修をした。
- v 教育委員研修会として「各幼稚園・小学校・中学校」の授業視察を行い児童生徒の現状について研修をした。

(2) 学校行事に関する事項

- i 羅臼幼稚園、春松幼稚園の卒園式・入園式・運動会・発表会・公開授業研への出席
- ii 羅臼小学校、春松小学校卒業式・入学式・運動会・学芸会・公開授業研への出席
・学習指導法研究大会への出席
- iii 羅臼中学校、春松中学校卒業式・入学式・体育大会・文化祭・公開授業研への出席
- iv 羅臼高等学校卒業式・入学式・学校祭・中高一貫教育等への出席

(3) 社会教育に関する事項

- i 羅臼町成人式
- ii 羅臼町文化祭
- iii 文化協会総会

(4) 体育行事に関する事項

- i 国後眺望駅伝大会
- ii 総合型地域スポーツクラブ「らいず」総会

(5) その他

- i 知床ユネスコ協会総会出席
- ii 教育委員の幼稚園・学校訪問
- iii 高校生の水産教室
- iv 羅臼町敬老会

3. 条例・規則等の制定、計画等の策定状況

| 議案番号 | 条例・規則等の制定、計画等名 | 担当課 |
|------|--|-----|
| 第1号 | 羅臼町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について | 学務課 |
| 第8号 | 羅臼町就学指導委員会規則の一部を改正する規則の制定について | 学務課 |
| 第9号 | 羅臼町立幼稚園の保育料及び入園料の減免に関する規則の一部を改正する規則の制定について | 学務課 |

第3章 平成25年度の主要施策

【内部評価の表示】

A…十分に実践し一定の成果がみられる

B…実践し一部成果がみられる

C…着手したがまだ成果が見られない

D…未着手或いは検討中

1 幼稚園・学校教育の主な推進項目と評価

| 概 要 | 総合評価 | 改善点・意見等 |
|---|------|--|
| (1) 幼稚園教育 | | |
| ◎幼児の発達の特性を踏まえ、羅臼町の特性を活かした幼児教育の実現を目指します。 | | |
| 【課題】 幼稚園は学校教育法に基づく学校として、学校教育及びその後の教育の基礎を培う重要な役割を担っています。幼稚園教育で示されている5領域(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」)をしっかりと踏まえ、園児の健やかな成長と発達を助長する保育の実践を目指します。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教育基本法の改定により、幼稚園が学校に位置付けられたことを重く受け止める。 |
| 【主な推進項目】 | | |
| ①身近な自然環境を活用したユネスコスクール活動の推進 | A | <ul style="list-style-type: none"> 環境の活用～まだまだ身近な環境の活用方を工夫する余地がある。 |
| ②接続のカリキュラムを小学校と連携して作成する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 内容の検討を一緒に行うこと。 |
| ③園児の体力・運動能力の向上を保育活動に活かす取り組みの推進。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 計画的継続的に取り組み成果が見られる。 外環境の見直しが必要。 |
| ④食育の推進 | A | <ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して、さらに効果的に進める。 |
| ⑤園児の虫歯予防対策の推進 | A | |
| ⑥特別支援教育や小学校との連携を意識した研修会への参加 | A | <ul style="list-style-type: none"> 園内研修や日常の話題としても取り上げ理解が深まっている。 |
| (2) 確かな学力を育む学習指導 | | |
| ◎教職員一人ひとりの実践的な指導力の向上を図るため、「幼小中高一貫教育研究会」や学習指導法研究会、各校の公開研究会などの活動を支援するとともに、道立教育研究所と連携して実施している「フリープラン研修」などを通じて資質能力の向上を図る取り組みを支援します。 | | |
| 【課題】 教員の資質能力、指導技術の向上を目指す機会設定にあたり、学校行事と重なる弊害もあることから、日程の策定にあたっては事前の調整が必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「フリープラン研修」と長期休業中学習会の日程調整に課題が残る。 |
| 【主な推進項目】 | | |
| ①全国学力・学習状況調査に、全校参加します。 | A | |
| ②道立教育研究所と連携して行う「フリープラン研修」への積極的な参加をするとともに「児童生徒の学力向上プロジェクト研究事業」協力支援を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> フリープラン研修は全職員が夏季・冬季のいずれかに参加 |
| ③児童生徒の学力把握のため全学年で実施している「分野別到達度テスト」を「全国標準学力検査」に切り替えて実施します。(CRT→NRT) | A | |

| | | |
|--|---|---|
| ④学力向上を図る取り組みを推進します。 | A | ・家庭学習の更なる定着が必要 |
| ⑤北海道教育大学釧路校や羅臼高等学校との連携事業に協力支援します。 ・理科支援員及び数学支援員の配置事業 ・学生ボランティア活動を受け入れ、アフタースクール事業などの学校教育活動を推進します。 | A | |
| ⑥校種別シラバスの接続を図る取り組みを推進します。 | B | ・シラバスの接続については未実施 ・現在取り組んでいる最中です。 |
| ⑦ユネスコスクール活動を推進します。 | B | ・意識が定着しつつある。 ・町外の学校との連携には課題がある。 ・ユネスコスクール発表会のみとなった。研修会参加など1年を見通した計画が必要。 |

(3) 信頼される学校づくり

◎学校が保護者や地域から信頼されるためには、より広く学校経営や学校の情報を伝える努力が必要です。また、保護者や地域から寄せられた貴重な意見を学校経営に具体的に反映することが重要ですので校長の強いリーダーシップの発揮が期待される。

| | | |
|--|---|--|
| 【課題】 学校で行われている日常活動の様子をホームページや学年便りなどを活用して周知を図るほかPTA活動の活性化を図り、学校全体に興味関心を高める必要がある。 | B | |
|--|---|--|

【主要な推進項目】

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| ①学校・家庭・地域の連携を考慮した特色ある活動を推進します。 | B | ・内容は十分とは言えないが意識して取り組んでいる。 ・本校独自のマップを中心にしている。 |
| ②羅臼町防災マップを活用した防災教育を推進します。 | A | ・2回の避難訓練、津波授業を実施している。 |
| ③学校行事へ保護者の積極的な参画を進め、開かれた学校づくりを推進します。 | A | ・少しずつPTA活動を活性化しているがまだ不十分である。 |
| ④教職員の各種法令順守の徹底を図ります。 | B | ・指導をしているが、速度違反があった。 |

(4) 豊かな心や健やかな体を育む教育

◎子ども達に自尊感情の低下が見られることから、全教科横断的に子ども達の心に寄り添った指導を行い、規範意識や倫理観などの高揚を図る道徳教育を推進します。

| | | |
|--|---|--|
| 【課題】 子ども達の体力や自尊感情の低下が危惧されています。「遅く生きていくため」や「人間関係をつくる力」などに直接つながる大切な力であり、学校における道徳教育やいじめ・不登校などに対する対応も年々難しくなっており、専門的な知識を持った対応が望まれています。 | B | |
|--|---|--|

【主要な推進項目】

| | | |
|---------------------------------------|---|--|
| ①学校の道徳教育を効果的に推進するために「ピアサポート研修会」を行います。 | C | ・校内ではピアサポートの取り組みを行っている ・未実施 ・外部講師を呼んでQ-U研修会は行ったがピアサポートは未実施 |
|---------------------------------------|---|--|

| | | |
|---|---|--|
| ②Q-U テストを年2回実施します。 | A | ・実施 |
| ③児童生徒の体力向上を図るため、スポーツを楽しむ機会を提供します。 | A | ・現状より多く提供することは難しい。 |
| ④校内アンケート調査や個人面談など生徒指導を推進します。 | A | ・教育相談、いじめアンケート、児童用学校評価を実施 |
| ⑤学校給食については、地元食材を故郷学習の教材として活用するほか、郷土食の調理方法について工夫します。 | A | |
| (5) 羅臼町支援教育の推進 | | |
| ◎昨年度から、羅臼町に在住する0歳から18歳までを対象に、障害の有無に関わらず「困り感」のある児童生徒を対象として羅臼町育ちの手帳「こんばす」の運用が始まりました。本年度はこれの運用を図ってまいります。 | | |
| 【課題】 羅臼町育ちの手帳「こんばす」は、所有を希望する保護者が具体的な利用方法を理解しないまま保持することもあると考えられるので、運用にあたっては毎年教員への説明また、各園・各校は個別の支援計画書を作成するにあたっては、保護者との十分な意思疎通を図り、一貫した支援体制の確立を図る必要があります。 | B | |
| 【具体的な推進項目】 | | |
| ①保健師や発達支援センターなどとも連携し、「こんばす」の普及を図ります。(自校の推進状況) | A | ・まだ必要と考える保護者が少ない。PRが必要。 ・11家庭15名が利用 |
| ②「こんばす」の利用にあたって、保護者説明会や担当教員の研修会を開催し、専門性の向上を図ります。(積極的な研修参加) | B | ・「こんばす」の活用を切り口として研修が深まっている。 ・研修で1度しか実施できなかった。 |
| (6) 自然環境教育の推進 | | |
| ◎教科学習や特別活動、総合的な学習などにおいて持続可能な社会を強く意識した教育を進める体制が整いましたので、表現力や発信力を高める活動を充実するとともに、幼小中高一貫教育充実を図るため、幼稚園におけるクマ学習や小学校向けプログラムの開発、外来生物学習の充実と中・高への接続など、異校種間の連携体制の課題を整理するため、現行カリキュラムの再編について検討を行ないます。 また、指導にあたる教員の理解を得るため、羅臼町へ転入する教員への説明や初任者研修会などを継続するとともに、教育大学釧路校に設置されている北海道 ESD 研修センターの協力を得ながら研修会を開催します。 | | |
| 【課題】 各園・各校が自然環境教育主幹と TT 授業を促進する必要があります。 | C | |
| 【具体的な推進項目】 | | |
| ①幼小中高による研究発表会を開催します。(ユネスコ研究発表会への参加) | A | ・複数学年を参加させたい。 |
| ②自然環境教育推進カリキュラムの再編成を検討します。 | B | ・一貫教総合部会に依存している。 |
| ③北海道 ESD 推進センターの協力を得て研修会を開催します。(参加状況) | D | ・一貫教講演会以外は行っていない。 |
| ④近隣市町村のユネスコスクールとの交流を行います。 | D | ・行っていない。 |
| ⑤「知床学」のテキストとなる副読本の編集を検討します。 | A | |

2. 学校教育に関わるその他の施策

(1) 主な調査

| 調査月日 | 調査名 | 担当課 |
|-------------|-------------------|-----|
| 平成25年 4月16日 | 小学校NRT調査 | 学務課 |
| 平成25年 4月18日 | 中学校NRT調査 | 学務課 |
| 平成25年 4月24日 | 平成25年度全国学力・学習状況調査 | 学務課 |
| 平成25年 4月24日 | 春松小学校 第1回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年 5月14日 | 羅臼小学校 第1回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年 5月17日 | 春松中学校 第1回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年 7月12日 | 羅臼中学校 第1回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年11月12日 | 羅臼小学校 第2回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年11月14日 | 羅臼中学校 第2回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年11月25日 | 春松中学校 第2回学級満足度調査 | 学務課 |
| 平成25年12月 5日 | 春松小学校 第2回学級満足度調査 | 学務課 |

(2) いじめ・不登校への取組み

- ①「いじめ」による重篤な問題は発生していない。
- ②不登校問題については、学校全体での取組みが行われており、現在、担任による家庭訪問を行い、学習資料を届け、保護者との話し合いをするなど、登校を促すための活動が継続されている。

(3) 教育委員会が行った主な教職員の研修等

| 開催月日 | 研修会名 | 講師等 |
|--------------------|--|---|
| 平成25年5月20日 | 第1回こんばす運用委員会研修会 | 講師：教育大学釧路校 准教授 二宮信一氏 |
| 平成25年6月 7日 | 第1回特別支援コーディネーターとこんばす運用委員合同研修会 | 講師：教育大学釧路校 准教授 二宮信一氏 |
| 平成25年6月28日 | 特別支援教育視察研修（津別町） | 津別町教育委員会 津別町NPO法人 |
| 平成25年7月24日 ～26日 | 「北海道立教育研究所フリープラン研修(第1期)」 羅臼町公民館会場 24日25名・25日38名・26日10名参加 | 講師：道立教育研究所 企画研修部北林靖市長他2名 |
| 平成25年7月26日 | 地教委連携セミナー「一貫教育一斉研修会」 | 講師：道立教育研究所 企画研修部長北林靖市郎氏 企画研修部主査長谷博文氏他1名 |
| 平成25年8月27日 | 第2回特別支援コーディネーター研修会 | 講師：教育大学釧路校 准教授 二宮信一氏 |
| 平成25年8月27日 | 幼稚園教諭研修会 | 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹 金澤裕司氏 |
| 平成26年1月8日 ～10日 | 「北海道立教育研究所フリープラン研修(第2期)」 羅臼町公民館会場 8日11名・9日16名・10日12名参加 | 講師：道研企画研修部 主査 高杉直人氏 他5名 |
| 平成26年3月15日 | 羅臼町ESD研修会 参加者 28名 | 講師：教育大学釧路校 教授 大森 亨氏 |

(4) 各種学校・学級支援

| 事業名 | 開催月日 | 講師等 |
|-------------------|--|---------------------------------------|
| 羅臼中学校 数学支援員の配置 | 平成25年11月18日～29日 | 講師：教育大学釧路校 大学院生 |
| 春松中学校 数学支援員の配置 | 平成25年11月18日～29日 | |
| 理科支援員事業 | 平成25年11月11日～15日・春松小学校 平成25年11月11日～15日・羅臼小学校 | 講師：教育大学釧路校 教育学部4年生 |
| アフタースクール事業 | 平成25年11月15日～17日・羅臼小学校 平成25年11月27日～29日・春松小学校 | |
| 防災教室の開催 | 平成24年12月18日 春松小学校6年生 平成24年12月18日 羅臼小学校6年生 | 講師：気象庁釧路地方気象台 教育大学釧路校 准教授 境 智洋氏 |

3 社会教育の主な推進項目と評価

| (1) 社会教育事業 | | | |
|-----------------|---|------|---|
| 概 | 要 | 総合評価 | 改善点・意見等 |
| ①諸会 | ・生涯学習の観点から、当町の社会教育振興策を探り、地域に根ざした推進方策を考える。 | C | ・会議は開催しているが、地域課題の現状把握等の作業及び自主的な取り組みに至っておらず、例年同様の活動内容である。 |
| ②社会教育計画及び各種調査研究 | ・地域の実情に即した社会教育計画の策定を行なう。そのために、各種調査及び資料収集活動を行い、計画の遂行及び事業展開のための基礎資料とする。 | B | ・各種事業のアンケート調査を行い新年度事業の材料としている。 ・事業量・事務量に対する職員の適正配置 |
| ③学校開放事業 | ・住民の生涯学習活動を推進するため、学校施設を開放し、学習の場として提供するための条件整備を図る。 | B | ・自主運営自主管理の運営委員会としては一定の機能を果たしている。 ・各団体の活動拠点として有効に活用されている。 ・自主管理・運営の委員会であることの意識は比較的高い。 ・団体に対する情報提供が行き届かなかった。 |
| ④第30回ふるさと少年探険隊 | ・ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養い、子ども達の郷土愛、忍耐力、協調心を育てる。 | A | ・地域スタッフとの連携・協力が諮られている。 ・地域に事業が定着している。 ・大学関係機関との連携 ・新たな地域スタッフ確保と育成。 |
| ⑤高校生の水産教室 | ・漁業後継者を志す高校3年生を対象に、漁業に関する基礎的、基本的な考え方や知識・技術を学ぶ機会を提供する。 | A | ・中高一貫、自然環境科目群、知床学との整合性。 ・ダイビング実習が計画より多い実施となった。 ・コマ数がこれ以上増やせない。 ・過去の専科生の追跡調査。 |
| ⑥成人式 | ・成人となったことを祝い社会人としての有意義な人生を歩むよう誓い励ます機会とする。 | B | ・担当者の事前の対象者への働きかけと関わり方。 ※祝福・激励するための想いと仕掛け。 ・思い出づくりを主眼とした成人者自らが関わることへの意識付け（実行委員会方式の検討） |

| | | |
|--|---|---|
| <p>⑦家庭教育学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育はどうあればよいのか、「親のあり方」「発達課題」「子育ての悩み」等、気軽に考え合える場をつくり、より良い家庭づくりを目指す。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・北海道のモデル事業として「親力つむぎ事業」を4回開催し、平成26年度実施に向けて検討をしている段階である。家庭教育学級としては未実施である。 ・小学校高学年層の親へのアプローチ |
| <p>⑧芸術文化活動振興奨励事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の自発的、創造的な芸術・文化活動の促進を図るため、町民を対象とした芸術的・文化的な事業を行なう団体に対して助成を行なう。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・例年同じ団体からの申請が続いている。 |
| <p>⑨少年芸術劇場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の児童・生徒に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養に資する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の部において、1年生と6年生の年齢差及び中学生と高校生の年齢差があり作品の選定に苦慮する。 ・予算的に公演依頼先に限りがある。 |
| <p>⑩子育て支援関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する事業を展開する関係機関と連携をとりながら子育て情報の提供を行い、サークル活動を支援していく。 | D | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館図書活動では「ブックスタート」等子育てサークルが活発に活動している。（保健福祉課の子育て支援事業が年々充実してきている。） |
| <p>⑪社会教育関係団体等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体をリードする指導者の発掘・養成を推進し、自主自立を目指した継続的な支援・育成を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・各団体ともに、自主的に活動がなされている。 ・団体リーダーの新規育成。 |
| <p>⑫リーダー養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や教育委員会各種事業を通じて、組織的学習活動の助長を図り、リーダーを養成する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成の視点を持ち各種事業を展開している。 ・青年事業は1年の中で中長期的な関わりが必要なことから、社会教育事業全体の規模を維持するためには職員の増員が必要不可欠。 ・現状の職員数では事業のスクラップオンリーによる見直しも必要。 |
| <p>⑬ジュニアリーダー研修派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー研修に派遣し、資質の向上を図るとともに団体生活の活性化に資する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加奨励。 |
| <p>⑭(仮称)青年団体連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青年層が地域(ふるさと)の課題に気づき、課題解決に向けた興味・関心を高め、青年自らが地域づくりに関わる機運・意欲を醸成し、青年各層が交流し楽しみながら活発な活動を創出する(=人が輝く)ことを目指す。 | D | <ul style="list-style-type: none"> ・青年教育は、リーダー養成事業により展開している。組織化を目標とすることなく、青年への活動機会、研修機会の提供や活動を支援することにより、青年自ら組織化の必要性を認めた時にそのことに対し支援する準備をする。平成24年度以前から青年たちに少なからず係った結果から以上のように方向転換をしたい。 |
| <p>⑮(仮)創作料理プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知床羅臼の風土や食・自然の素晴らしさについて再発見すること、課題や問題点に対し共に学びあい・助け合う集団行動を体験的に学び取ることをねらいとして「ふるさと学習」につながる取り組みとする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度は、試行的な取り組みであったが、漁協・飲食店組合・各企業等が協賛し、地域が一体となった取り組みが展開できた。加えて、将来の羅臼町の担い手となる子ども達による地域活性化・地産地消を観点に置いた、食・文化に関するこうした学習活動は、コンテストに出場するか否かに関らず「ふるさと学習」を推進するにおいて有効的な手段であると判断できる取り組みとなった。 |

| (2) 文化財保護調査事業 | | |
|---|---|--|
| ①国指定天然記念物保護事業 ・国指定天然記念物の保護と生態、生育環境の調査、一斉調査。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 各種調査を例年通りに実施しており天然記念物の保護に必要な基礎データ等が得られている。 これまでの通常監視データが集積されているが、このデータに対する調査・分析が十分に行えていない。 |
| ②道指定天然記念物保護事業 ・隧道工事が行われているマッカウス洞窟の環境変化を定期的に監視する。間歇泉の噴湯調査を実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 道指定天然記念物の定期的な調査・監視を行っており、保護が図られている。 間歇泉については、短期間の噴湯休止があるなど、年々不安定な状態となっている。今後も継続的な調査が必要である。 |
| ③埋蔵文化財保護事業 ・古代の歴史を今に伝える遺跡を保存し、事前協議が必要なものに関しては調査を実施する。発掘調査が必要なものは、発掘を実施し、記録として保存する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 各事業とも当初の予定の作業を終了している。 平成24年度からの松法川北岸遺跡出土品調査により、この重要性を再確認したことから、今後は活用方法が課題となっている。 |
| ④郷土資料館整備・管理事業 ・自然や歴史的な文化財を多く残す羅臼町において、その一部に間近に接し郷土への認識を深める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 日常管理、来館者への展示解説については、成果が現れているが、展示資材の作成及び収蔵庫の整理については、埋蔵文化財保護事業の事業量の増加があったため、一部作業は未着手である。 平成23年度に羅臼町郷土資料館として峯浜町に移転し、来館者は増加中であるが場所がよくわからないとの問い合わせも増加している。 |
| ⑤郷土資料館講座 ・郷土の歴史や文化に親しむ講座を開催し、その理解を深める。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 参加者の満足度は高いが、定員に満たない。 開催時期や魅力ある講座内容の検討が必要である。 |
| (3) 公民館事業 | | |
| ①調査・評価 ・公民館活動充実のため、各種調査・評価を行い事業展開の基礎資料とする。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 講座への参加者が少数のため、やってほしい講座も少数意見となっている。 |
| ②ふるさと体験教室（知床 Kids） ・らうすの自然を楽しみながら学習し、郷土の文化を愛する心を育てる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 参加しているキッズが、楽しみながら羅臼の自然や郷土文化を学習している。 毎年参加しているキッズが多く、新規プログラムの開発が必要。 |
| ③「こまぐさ学級」 ・趣味活動、教養講座を通じて高齢者が生きがい感をもてる機会を提供する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 若い参加者の発掘 高齢者に即したプログラムの発掘 |
| ④公民館相談事業 ・各種グループ・サークルの自主的な活動を助長し、住民のふれあい活動を促進する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 予算が限られているため周知しにくい面がある。 物品貸出しの要望は多いが自主的な講座や学習を要望するサークル等が少ない。 |
| ⑤第42回羅臼町総合文化祭 ・町内の文化活動をしている個人・団体・グループが一堂に会し、日頃の活動成果発表する機会を提供し、活動の助長を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 個人、団体、グループが一堂に会し、日頃の活動成果発表の場となっている。 「みんなで作り上げる文化祭」という意識が芽生えてきたが、作品展への出品数が減少傾向になっている。 |

| | | |
|--|---|--|
| ⑥ふれあいコンサート ・町内の園児・児童・生徒等に音楽の発表の場を提供する。活動の助長を図り、あわせて異世代の交流を通じたふれあいの場とする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・新規出演団体が少ないものの幼稚園から高齢者までが参加し異世代交流を通じたふれあいの場となっている。 ・新規出演者の確保。 |
| ⑦児童・生徒美術書道展 ・町内の児童・生徒の美術及び書写活動による作品を一堂に会することにより、一層の情操と創造の心を育てる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数の減少に伴い、作品数が毎年減少傾向にある。 ・展示スペースにあった安定した出品作品数の確保 |
| ⑧芸術文化鑑賞事業 ・多くの人に知られている著名人を招き、現代社会に即応できるような知識・見聞を深める。又は、生の優れた音楽を鑑賞する機会を提供する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・会場キャパ（客席数）の事情により、高額な費用を要するいわゆる著名人は呼べない。 ・中標津町等で高額な著名人を鑑賞できる環境がある中、低予算で成果が現れる講師選定が困難な状況にある。 |
| ⑨ロビー・ホール展示事業 ・気軽に芸術・文化に触れる場とし、また、学習活動の発表の場として活用する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の発表やコンテスト等での入賞作品など芸術や文化に触れる場として活用されている。 ・新規出展者の発掘や新たな展示企画が必要。 |
| ⑩知床学講座 ・知床に関わる講座や知床の食材を使った料理教室等を通じて、知床に関する知識の向上を図るための機会を提供する。 | D | <ul style="list-style-type: none"> ・未着手 |
| （４）図書室事業 | | |
| ①資料整備事業 ・町民一人一人の資料要求にきめ細かく対応し、個人学習を支援する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・臨時司書配置（H24・4）により司書2名となり、サービスが向上し予約件数が安定している。 ・新刊を中心に厳選した本の購入をしていく。 |
| ②一日子ども司書 ・図書館の仕事について知ってもらい、適切に利用できるよう援助する。また、本を紹介し読書の動機付けを図る。 | D | <ul style="list-style-type: none"> ・より事業効果が得られる時期に実施するよう変更したが未着手となった。 |
| ③読み聞かせ事業 ・本の紹介や読み聞かせを行い、読書の動機付けを図る。また、司書との交流を図り図書室に親しみを持ってもらう。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の出前事業を増やし回数内容とも充実している。 ・子どもの図書館バス利用につながっている。 ・親子連れの図書室利用が増えている。 ・ボランティアのための研修機会も提供し、活動意欲を高めている。幼稚園 PTA 活動も充実している。 |
| ④図書館バス利用ガイダンス ・町内の子ども達に公共施設を適切に利用する習慣や社会性を身につけてもらうため利用指導を行なう。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・事業が定着している。 ・学校幼稚園とも連携がとれている。 |
| ⑤本との出会い講座・講演会 ・親子の絆を深める家庭での読み聞かせを普及するため、絵本について学ぶ機会をつくる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの研修のコマを設け、活動意欲を高めてもらうことができた。 ・ブックスタートのフォローアップ事業として実施した。 |
| ⑥第11回らうす古本市 ・限られた資源を有効利用しようとするリサイクルの時代に、不要になった本や雑誌を町民に還元することにより再活用してもらい、この活動を通して図書館活動への関心を持ってもらう。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・人出も多く、体育館で行うことも定着している。（体育館で行うのは5年目）通年で本を収集し、魅力を維持することが課題。 ・ぶっくぶっく交換会はまだ定着していない。 ・寄贈本の確保。 |

| | | |
|--|---|--|
| <p>⑦図書室出前事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の要望や学校での読書案内の要望にきめ細かく対応し、図書活動の推進を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館と連動した事業で学級生にも好評だった。 |
| <p>⑧ブックスタート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本を仲立ちに赤ちゃんと保護者が温かく楽しい時間を過ごし、一層絆を深めてもらうきっかけづくりのため、母親学級で手づくり絵本を作成したり、乳幼児相談でブックスタート事業を行い、地域の連携によって子どもを育て支援する体制をつくる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回答は大変好評。 |
| <p>⑨道立図書館市町村活動支援関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道立図書館の市町村活動支援を受けることにより、低迷している貸し出し状況を回復し、図書活動の活性化を図り、子どもの読書活動を推進するための取り組みをしていくはずにする。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を改善し、使いやすい図書館になった。 ・学校との連携を図ることができた。 ・読書活動を活性化させるきっかけづくりになった |
| <p>⑩(新規)子どもの読書推進ネットワーク会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体が包括的に子どもの読書活動に関する価値観を共有し、子どもが読書に親しみながら成長するよう環境整備を図るため、ネットワーク会議を設置し機能させる。 | C | |
| <p>⑪図書館バス巡回事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地から遠い場所に住む市民へ図書館サービスを提供する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の利用低迷。羅臼小学校は利用が多く車内が混雑しすぎる状況になる。 ・平成9年から使用しているため、老朽化しており故障を繰り返している。1ヶ月巡回を休止した。 ・利用者ニーズに合った魅力ある図書の入れ替えが必要。 |
| (5) 社会体育事業 | | |
| <p>①諸会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育振興の視点から当町の体育・スポーツ並びに健康・体力づくりの振興方策を探り、地域に根ざした社会体育の推進に努める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員会議の開催、管内、全道研修会への参加は委員、職員ともにほぼ充実している。 ・会議毎に、地域のスポーツ課題について話し合いを行い、まずは、子どもの体力・運動能力の現状を把握するとともに、競技役員不足を解消することを狙いとし、小学校陸上運動大会のスタッフとして協力した。 ・会議以外のスポーツ推進員委員活動の充実。 |
| <p>②調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査により、社会体育事業を効果的に実施する方策を検討する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・「らいず」は主催事業や体育館利用者懇談会時に意見箱を設置し実施している。調査結果はスポーツ担当と共有し、今後の事業計画やスポーツニーズの把握・施設有効活用に役立っている。また、体育館利用者との日常的な会話から発信されるスポーツニーズや利用者の意見要望を、ソフト面中心に可能な範囲で対応している。 ・行政が主体的に行う調査研究の取り組みは滞っている。要求課題に答えられるスポーツ振興を主体的に担う「らいず」がある。スポーツを通じたまちづくりの根幹を握るためには潜在的な必要課題に着目していかなければならないが、具体的策の検討と実行に難航している。 |

| | | |
|--|---|---|
| <p>③小学校陸上運動大会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種の陸上競技を適切に行なわせることにより、心身の健全な発達を促し、相互の友愛を深め公平な態度を育てる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> • 大会実施には至らなかったが、“走る、投げる、跳ぶ”という体を動かす基本動作を、陸上ルールに基づいた練習を通じ機会提供が図られており、陸上競技に対する理解を深められている。 【運営委員会より】 • 指導できる教員がいない。高跳びのパスの有効利用など記録を伸ばすことを目的とした練習までは手が回らないなど、満足な指導には至っていない。 • 町教委・学校関係者のみの役員では現状の運営は成り立たない。出場数や運営方法等ソフト面の見直しを図る時期にきているのではとの意見あり。 • グラウンドの維持管理について |
| <p>④各種関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> • 練習成果発表の場及び町民相互の交流機会の提供を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> • 機会提供として各事業、対象者にアプローチし実施している。 • 町体協に対し、大会実施を仕掛ける取り組みが必要である。(周年記念事業の成果を無駄にしない。) |
| <p>⑤各種スポーツ相談事業・各種スポーツ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を活発化させるとともに、自主活動の促進を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> • 町民体育館の指定管理者制度に伴い、受託業者の主催事業として移管され初年度だが、らいずが持つノウハウ・手法を活かし要求に応じ直接講師として相談に対応している。また、体育館利用者中心に幅広くアンケート調査を実施するなどニーズ把握にも努めており、即時相談に応じられる体制を整える努力も見られる。 • 今年度は、らいず職員・運営委員が直接指導で対応しているが、多様化する志向と幅広い年齢層にあったニーズに安定的に対応するためには、研修会参加等学びの機会が必要である。 |
| <p>⑥学校体育施設開放事業</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域住民の居住地である学校体育施設を開放することにより、スポーツ・レクリエーション活動の促進を図り、健康・体力づくりの意識付けを図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> • 自主管理運営方式の各小学校の状況は、羅小・春小ともに時期にこそよるが開放日に余裕があり、利用希望があった場合も対応できる。指導員配置方式の羅中、春中ともに老朽化が著しいが、各小学校に空きが無い状態になった場合、学校授業や管理体制に支障のない範囲で開放できる体制が整っている。 • 施設の老朽化。 |

| | | |
|---|----------|--|
| <p>⑦子どもの体力向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動習慣及び望ましい生活習慣・食生活の育成を図るため、児童生徒の体力・運動能力の向上を推進する。 | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「児童・園児の体づくり・運動能力向上事業」として教育委員会の委託事業化をして初年度を迎えている。全児童・園児が楽しみながら身体を動かすことができること・運動好きな子を増やす可能性を秘めていることが学校現場や保護者から高い評価を得ている。また、少年団現場からの実施要望もあることから、COTを通じた子どもの体力向上に期待する機運は徐々に高まりを見せている。 運動をする子、しない子(嫌いな子・できない子)の二極化が依然として進行している。 子どもの体力低下から起因する日常生活や食生活・生活習慣のみだれ、学力低下等様々な障害が生じている。 自らが進んで、運動・スポーツに親しむ習慣や体力を養うことのできる機会提供と環境整備が課題である。 幼青少年期の体力低下から起因する様々な諸問題を学ぶ(保護者を対象とした)場が必要である。 |
| <p>⑧指導者(リーダー)養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域リーダーやスポーツ活動をけん引する指導者の発掘・養成を推進する。 | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各種指導者研修会やニュースポーツ講習会、リーダー研修会を体協・スポ少を中心に積極的な情報発信を行い、団体の要望に応じ参加体制を整えてきた。但し、参加奨励にとどまるが多く、行政が主体的に指導者発掘・養成する手立てに苦しい現状にある。 らいす体育振興事業と位置づけている本事業において、指導者に対するCOT講習会を実施しており、資質向上に努めている。 情報収集・発信を積極的に行っているが、具体的な事業展開(しかけ)が滞っている状態である。 健康づくり・競技スポーツ志向の内容での講演会開催希望もあるが予算に限りがある。 指導者と密接である体協・少年団・らいすの連携(共催・三位一体)した継続性を有する取り組みがない。 スポーツニースや団体の実態にそくした指導者養成事業の展開が必要である。 外部指導者(講師)の派遣等では団体とのつながりから元アスリート等を招へいした事例もあること・近隣市町村の指導者にも優れた人材がいることを等を踏まえ、町全体のスポーツ振興の視点から、団体・関係(管内・外)機関との連携を密にし、情報収集と具体策の展開が求められる。 |
| <p>⑨体育施設の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ施設の整備および効果的な開放の促進を図る。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> 羅臼町民指定管理者制度に基づき、本年4月よりNPO法人羅臼スポーツクラブらいすに管理運営を信託した。現在の進捗状況としては、利用者・利用料ともに若干ではあるが昨年対比増となり、滞りなく運営されていることが報告されている。施設有効活用も視野に入れた自主事業の展開も積極的であり、スポーツの情報発信拠点としての役割も果たしつつある。利用者の目線に |

| | | |
|--|----------|--|
| | | <p>立った施設の管理方法も随所に見られるなど、利用し易い施設を追求する努力も評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〃・数年前に行われた大規模改修では内外装が主であり、それ以外の部分（屋根、ボイラーダクト、壁モルタル等）は経年による劣化がかなり進んでいる。 ・行政に修繕費の予算がないため、経年劣化による修繕に毎度協議を要する。（軽微なものでも補正するのか、らいずに直させるのか・・・） ・冬期間におけるスポーツ活動の場が少ない。（体育施設全体） |
| <p>⑩社会教育関係団体等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体をリードする指導者の発掘、養成を推進し、自主自立を目指した継続的な支援、育成を図る。 | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで支援の重点であったスポーツクラブは NPO 法人格の取得をはじめ、自主財源確保のための事業拡大など今後市民が主体的になり得る動きが活発化している。体育協会、スポーツ少年団については、事務局的機能を担い支援を継続している。 ・体育協会に対し加盟団体の関わりが薄い。 ・単位団における技術指導者の不足。 ・体育協会加盟団体、スポーツ少年団加盟団体への活動支援。 ・中学校、高等学校の部活動加入率の低下。 ・スポーツ少年団競技種目の限定化…？（今後の課題）〃 |
| <p>⑪各種補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ団体がより活発な自主活動を展開するための経費を補助する。 | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・活動や運営に対し例年補助されており、有効に活用されている。 ・管外大会派遣費助成について、近年大会の種類が増え、対象の見極めが難しいものがある。 ・町バスの貸出基準に及ばないが、明らかに町バスの方が金額や移動に効率が良い場合がある。その都度、有効手段を選択しているが調整が難しい。 ・管外派遣費助成の内規の作成や町バス貸出基準の見直しが必要。 ・町補助金は、団体の性質・事業効果等を見極め現在の補助金額を最低ラインとして今後も継続的な補助が必要。 |

第4章 外部評価委員の意見

1 学校教育について

【良いと感じたところ】

- (1) 北海道立教育研究所フリープラン研修の実施、積極的な研修への参加など教員の学ぶ環境が整備されている。これは、教員の研修機会を増やし、学んだ事が子どもたちへ還元されることが期待できる。今後も継続し、『研修が充実した羅臼』という印象をつけていきたい。
- (2) 子どもたちの学ぶ意欲の向上がみられ、学力テストなど点数で測ることのできる学力の向上が見えている。
- (3) 拓かれた学校として住民やその他の人々（学生など）が学校に入り、子どもたちを協力して育てていこうとする姿が見えている。このことは、大きく羅臼の教育が良い方向へ変わったと感じる要因の1つである。
- (4) ここ数年、現場の先生方、教育委員会のスタッフのご努力によって、学校教育全般として、充実が図られてきており、成果も上がってきていると思われる。
特に、教員研修は、他の市町に比べ充実が図られており、指導者養成に力を注いでいくことは、教育の質的向上のためには、必須の事柄であり、教員の自主性を尊重しつつ、その学びの環境を整え、支援していくことは、教育委員会の大きな責務であり、それを丁寧に実践されていることは、高く評価できる。

【課題として感じたところ】

- (1) クマ学習、ユネスコスクールへの先生方の積極的な関与が見えてこない。
クマ学習を行う上で、先生方が積極的に羅臼の自然を学ぶ姿勢、羅臼の環境への問題意識を育成していくことが重要に思います。また、羅臼の自然を取り入れた学習や、羅臼の素材で授業を展開する学習を創造し、教員全員がクマ学習、羅臼の自然を生かした学習に主体的に取り組んでほしいと願っています。
数年で異動してしまう先生です。しかし、羅臼にいる間に、知床の自然に積極的に触れ、知床の素材を積極的に学習に生かしていくことが、知床の自然を愛し、地元を愛する子どもたち、地元に住み続けたいと願う将来の大人を育てていくと思います。教科書の内容を熟すことは重要です。しかし、教科書の内容の一部を知床の素材で実施できる力量を身につけて欲しいと願っています。
社会教育との連携も重要です。学校の教員の中で、知床の〇〇（〇は自然、歴史、気象、地質など）に秀でた教員を作っていくこともできるのではないのでしょうか。
- (2) 問題解決型の授業の取り組みの重要性を共有していない。
算数の問題を解けること、国語の問題を解けること、基礎的な読み書きをできることなど基本的な事項の学習は大切なことです。その上で、様々な問題を見だし、自分たちで解決していく問題解決能力の育成も重要であることを意識して欲しいと願っています。

クマ学習、知床学ともに、自然を学ぶこと、羅臼の歴史を学ぶこと、北方領土に関して正しい知識を得ることなど、学校がこれらのことを子どもたちに伝えていくことも重要です。しかし、今、何が問題となっていて、私たちがどう解決していかねばならないのか。そのような課題を見だし、自分たちでどう解決していくのかを考えていく、または行動することを子どもたちに伝えていくことも重要です。やはり、今の子どもたちが自分たちの町をしっかりと知り(先生方も同様にしっかりと羅臼を理解する)、その上で問題を見出す。そしてその解決方法を考え、行動する。このような地元の問題を考え、解決していく姿勢は、将来の羅臼町を支えていく上で重要です。このような授業を想像していかねば、子どもの視線は羅臼から離れていくことと思います。

(3) 教員が授業研究をする時間、教材研究する時間が短い。

「教師は教えることのプロ」であり、その意識を強く持って欲しい。そのために、日々の授業の教材研究の時間を充実してほしい。小学校の少年団活動は、学校の教員が支える時代ではないことを道東の地域は意識すべきです。やはり教員は学校教育に全力を注がせるべきです。部活動も同様ですが、性質が違うため難しいところです。部活動を軽減し、教材研究や教材開発に熱中できる環境を作ることも重要に思います。

教育全般として、教員はもとより、住民は将来の羅臼に対して危機意識を持たねばならないと思います。

- 児童、生徒が大人になりこの町を支えていく力を身につけることができるのか。
- 将来の羅臼の町を維持し、より住みやすく魅力ある町に作り上げていく人材となっていくことができるか。

日々の学力問題、生徒指導、生活指導の先に 20 年後、30 年後の羅臼の姿を想像して日々の学校教育、社会教育が展開されていかねばならないと思います。危機意識は日々の教育を変革します。何とかしなければ羅臼がなくなってしまう。私たちのふるさとが消えてしまう。その中で今、何をしたいか考えなければならないのかを考える時が来ていると感じています。

2 社会教育について

【課題として感じたところ】

- (1) 以前からの課題ではあるが、子育て支援と青年期の支援に課題を抱えていることが窺われる。子育て期の保護者の組織化は、その後の PTA 活動の充実にもつながることから、保護者の中のリーダー育成に向けて、取り組まれることを期待したい。

青年期の取り組みに関しては、羅臼高校生と行政とのつながりを強化し、高校生の地域づくりへの参画などを企画し、そこから育て上げていくことが必要であり、長期的な展望に立って取り組まれることを期待したい。

- (2) 保護者の学びの場の設定や PTA 活動の充実に対して、学校、教育委員会として意識し取り組んではいるものの、なかなか成果が出ていないことに苦慮されていると感じる。焦らず、じっくり取り組まれることが肝要と思われ、新たな戦略の立案に期待したい。

3 第2回外部評価委員会における意見・提案等

- * 異業種青年による活性化ワーキンググループについて、全国的に青年の活動がうまくいっていない状況がある中、青年たちが「自分たちで作るんだ。」という取り組みは価値のある事であり大いに評価できる。やり甲斐につなげ、その姿を子ども達が見てまた次につながる事が重要。
- * 職員数も減少している中、これまでの社会教育事業では難しい。スクラップ&ビルドの考え方必要。
- * 教育委員会のスタンス重要。指導というより支援という発想の方が、住民にとっては良いのかもしれない。青年達が、取り組んだことで「町にこういう影響を与えた。」「こういう成果が出た。」という形になるとリアリティも出て、やり甲斐も見いだせる。
- * 子ども達についても、自分たちが学んだ事がなんの役に立ったのかが見えないとやる気につながらない。学んだ事どう役に立つか、どういうところで活かされるかセットで考えてあげることが大事。
- * 探険隊スタッフの人材確保、課題である。
- * 小学生・中学生・高校生をスタッフとして活用する場面が大事。この体験が次につながり、まちづくりにつながっていく。
- * 冬季スポーツの振興・健康教育という視点で、羅臼町のフィールドを使った取り組みは有効。学校教育や社会教育事業での活用を。